

日本史新発見

～あの出来事の最新事情～

河合 敦氏
Atsushi Kawai

歴史作家・歴史研究家。多摩大学客員教授。早稲田大学非常勤講師。『世界一受けたい授業』（日本テレビ系）などテレビ出演多数。歴史の意外なエピソードの紹介や分かりやすい解説に定評がある。著書に『世界一受けたい日本史の授業』『日本史は逆から学べ』『逆転した日本史』など。

第4回

伊藤博文は危険なテロリストだった!?

初 代総理大臣の伊藤博文は、若い頃は攘夷(排外主義)思想に傾倒する危険なテロリストだったことをご存知でしょうか。

文久2年(1862年)11月、イギリス公使の殺害計画を企てたことで、伊藤は高杉晋作らと長州藩から謹慎処分を食らっていました。しかし12月12日、謹慎中の身でありながら性懲りもなく品川御殿山に建設中のイギリス公使館に侵入、焼き払ってしまったのです。もともとイギリスは品川の東禅寺を公使館として使用していたのですが、攘夷派に2度も襲撃され死傷者を出したので、御殿山に公使館を新築していたところでした。

この焼き打ち事件から9日後の12月21日夜、伊藤は同志の山尾庸三と共に、国学者の塙次郎(和学講談所をつくった保己一の子)を江戸の九段坂で暗殺したのです。塙は、老中の安藤信正の命で廃帝の調査をしていました。すると、孝明天皇を廃すため幕府が塙に前例を調べさせたという噂が立ち、伊藤は「そんなことに手を貸すとはけしからん」と激怒し、犯行に及んだといわれています。

こうした過激な事件を立て続けに起こした翌年に、伊藤はなんとイギリスへ留学します。敵情を探り、蒸気船の航海術を学ぶため藩公認の留学生になったのです。幕府は当時、日本人の海外渡航を禁じており、この留学は「密航」でした。井上馨らと上海へ渡った伊藤は、わずか300トンの帆船でイギリスへ向かいました。

イギリスに着くと、ロンドン大学のウィリアムソンの屋敷に間借りして勉学に励みました。ただ、滞在は数カ月で終わりました。というのは、長州藩が外国船に砲撃したため列強諸国が激怒、武力衝突に発展しそうな事態を知ったためでした。

伊藤は衝突を食いとめようと横浜へ戻り、イギリス公使のオールコックに事情を話して豊後国姫島まで移送してもらいました。相手は、自分が2年前に殺そうとしていた人物でした。すでに伊藤は、数カ月のイギリス留学で完全に攘夷思想を捨て去っていました。列強には戦っても勝てない。まずは日本にヨーロッパ型の近代的統一国家をつくり、植民地への転落を防ぐべきだと180度意識を転換したのでした。まさに百聞は一見にしかず、なのです。



留学途中であったがやむなく帰国——



ちょこっと旅ガイド



めしうりはたごや
【飯売旅籠屋「相模屋」(土蔵相模)跡】 品川区北品川 北品川駅から徒歩3分

飯売旅籠屋「相模屋」は「土蔵相模」と呼ばれ品川宿でも有数の規模を誇った妓楼(きろう)でした。伊藤博文らはここで焼き打ちの準備をし、焼き打ち当日はここから出発しました。その跡地はマンションになっています。また、イギリス公使館は現在の権現山公園付近にあったといわれています。